

<令和2年度「地域未来塾」実施市町 一覧表>

No.	市町村名	地域未来塾名	対象学校区名	実施場所	実施形式
1	瀬戸市	瀬戸市立光陵中学校「地域未来塾」	光陵中	中学校	個別指導
		瀬戸市立水無瀬中学校「地域未来塾」	水無瀬中	中学校	個別指導
2	尾張旭市	尾張旭市地域未来塾	旭中、東中、西中	その他	個別指導
3	豊明市	とよあけ どの塾	豊明中、栄中、沓掛中	市役所	授業形式
4	小牧市	小牧市学習支援事業「駒来塾」	北里中、小牧西中	市民センター	個別指導
		小牧市学習支援事業「駒来塾」	篠岡中、光ヶ丘中、桃陵中	市民センター	個別指導
		小牧市学習支援事業「駒来塾」	味岡中、岩崎中	市民センター	個別指導
		小牧市学習支援事業「駒来塾」	小牧中、応時中	市民センター	個別指導
5	北名古屋市	北名古屋市アフタースクール教室	師勝中	中学校	個別指導
		北名古屋市アフタースクール教室	西春中	中学校	個別指導
		北名古屋市アフタースクール教室	白木中	中学校	個別指導
		北名古屋市アフタースクール教室	訓原中	中学校	個別指導
		北名古屋市アフタースクール教室	熊野中	中学校	個別指導
		北名古屋市アフタースクール教室	天神中	中学校	個別指導
6	犬山市	地域未来塾(犬山学び場「みらい」)	犬山中	公共施設	個別指導
		地域未来塾(犬山学び場「みらい」)	城東中	公共施設	個別指導
		地域未来塾(犬山学び場「みらい」)	南部中	公共施設	個別指導
		地域未来塾(犬山学び場「みらい」)	東部中	公共施設	個別指導
7	江南市	江南市こども未来塾	古知野中、布袋中、宮田中、北部中、西部中	防災センター	グループ学習
8	津島市	ドテラ・月テラ	神守中	中学校	個別指導
		津島市立天王中学校区地域未来塾(ごずてん)	天王中	中学校	個別指導
9	大治町	大治町立大治中学校区 スタディーサポートクラブ(SSC)	大治中	公民館	個別指導
10	常滑市	常滑市地域未来塾	青海中	公民館	個別指導
		常滑市地域未来塾	南陵中	公民館	個別指導
		常滑市地域未来塾	鬼崎中	公民館	個別指導
		常滑市地域未来塾	常滑中	公民館	個別指導
11	東海市	学習広場 みらい一な(北地区)	名和中、平洲中、上野中	公共施設	個別指導
		学習広場 みらい一な(南地区)	富木島中、横須賀中、加木屋中	公共施設	個別指導
12	大府市	まなポート(大府市中学生学習支援事業)	大府中	公民館	個別指導
		まなポート(大府市中学生学習支援事業)	大府西中	公民館	個別指導
		まなポート(大府市中学生学習支援事業)	大府北中	公民館	個別指導
		まなポート(大府市中学生学習支援事業)	大府南中	公民館	個別指導
13	刈谷市	なごみん塾	刈谷南中、刈谷東中、富士松中、雁が音中、依佐美中、朝日中、刈谷高、刈谷北高、刈谷工業高、刈谷東高、愛教大附属高	総合文化センター	個別指導
14	みよし市	みよし未来塾	三好中、南中、北中、三好丘中、三好高	公共施設	個別指導
15	田原市	東部中学校区たはら地域未来塾	東部中	中学校	グループ学習
		田原中学校区たはら地域未来塾	田原中	中学校	グループ学習
		福江中学校区たはら地域未来塾	福江中	社会教育施設	グループ学習
		赤羽根中学校区たはら地域未来塾	赤羽根中	社会教育施設	グループ学習
16	東栄町	とうえい地域未来塾	東栄中	中学校	個別指導
17	豊根村	とよね地域未来塾	豊根中	中学校	個別指導

(塾名) 瀬戸市立水無瀬中学校「地域未来塾」**(運営主体) 水無瀬中サポートステーション****(取組の概要)****1 背景・ねらい**

地域学校協働本部の設置を受け、地域学校協働活動推進員が地域の大学生に呼びかけ学習支援を実施。身近なロールモデルである大学生との交流から生徒の学習意欲向上を図ることをねらいとする。合わせて地域人材の参画をきっかけとし、地域と家庭と学校の持続可能なつながりや循環を整え、地域の教育力の向上を目指す。

2 対象校・対象者

瀬戸市立水無瀬中学校3年生

3 実施教科

全教科

4 実施場所

中学校内空き教室

5 実施の形態

自習形式を基本とし、わからない問題を大学生サポーターに質問し、指導を受ける。大学生が指導方法に困ったときは、他の大学生と助け合ったり、教員からアドバイスを受けたりすることで、大学生の指導力向上にもつなげる。

6 実施日・回数

全6回(1学期2回、夏休み中3回、2学期1回)

実施時間帯

午後2時～5時のうち2時間程度

7 登録人数

全6回で延べ305名参加(登録制ではない)

8 参加人数(平均)

約50名/回

9 コーディネーター

事前準備(日程調整、資料作成、出欠確認等)

等の取組の様子

当日管理(出欠確認、大学生サポーターの援助等)

**(取組の結果・効果)**

今年度から配置された地域学校協働活動推進員と地域連携担当教職員との連携により実施した。大学生の中には、教員志望の卒業生も含まれており、生徒と大学生双方にとって有益な事業となった。参加した生徒や保護者からの「来年度以降も継続してほしい」という声から、学習意欲向上につながっている様子が伺える。感染症対策として、家を出る前の体温測定や、体調に不安があれば参加を遠慮してもらうことをお願いし、現地では手洗い、手指の消毒、体調チェック、マスクとマウスシールドの着用を義務付けた上で活動した。

(塾名) 尾張旭市地域未来塾**(運営主体) 一般社団法人あいち子ども包括支援協会****(取組の概要)****1 背景・ねらい**

学習が遅れがちな中学生・高校生の学習意欲の充実及び向上を図ること。

2 対象校・対象者

市内在住の中学生・高校生

3 実施教科

生徒が希望する教科

4 実施場所

委託先NPO法人の施設

5 実施の形態

生徒が学習する教科の教科書・問題集・宿題教材を持参する自主学習方式を基本とし、学習支援員が個別に学習支援を行う。

6 実施日・回数

6～3月の木曜日 35回

実施時間帯

午後5時～9時

7 登録人数

40名

8 参加人数(平均)

37名

9 コーディネーター

学習支援員が支援の状況の把握、出欠管理、学生サポーターの援助等を行っている。学習支援員同士で打ち合わせを行い、生徒の状況について情報を共有している。

等の取組の様子**(取組の結果・効果)**

新型コロナウイルス感染症拡大のため学校再開後の7月からの開始となったが、中学生全員に配布したチラシの内容も生徒や保護者の目が留まるように工夫した。また、授業の遅れの心配もあったのか、定員数を超える申込があった。毎回多くの生徒が参加しているため、それに伴い学習支援員も当初より多く配置した。学習が遅れがちな生徒に寄り添った手厚いフォローができている。また、生徒たちの居場所づくりとなるよう勉強以外のコミュニケーションも積極的に取るようにしている。その後口コミによる追加の応募もある。毎月出欠の希望を取り、地域未来塾に通う意識を高めるようにしている。他校の生徒と触れ合うことで、子ども同士刺激しあい熱心に勉強に励んでいる。コロナ対策として入館時にはマスク着用・アルコール消毒・検温を行い、実施時間帯は換気を徹底している。

(塾名) とよあけ どうよう塾		(運営主体) 教育委員会学校教育課
(取組の概要)		
1 背景・ねらい	基礎的な学力の向上を図るため、勉強する意欲はあるが塾などへ通っていない生徒を対象に土曜日に補充学習を行う。	
2 対象校・対象者	豊明市公立中学校に通う生徒（塾などに通っていない生徒に限る）	
3 実施教科	数学、英語	
4 実施場所	豊明市役所、南部公民館	
5 実施の形態	一斉授業の形式で数学・英語の授業を学年別に行う。ALTや複数の指導員、学生ボランティアを配置し、分からないことはすぐに質問できる環境を作っている。	
6 実施日・回数 実施時間帯	月2回土曜日の午後に実施 年間17回 【1年】午後1時～3時 【2・3年】午後3時～5時（冬季以外） 【1年】午後1時～2時30分 【2・3年】午後2時30分～4時（冬季11～1月）	
7 登録人数	54名（1年生：23名、2年生：17名、3年生：14名） ※R2. 12現在	
8 参加人数(平均)	38名（約70%）	
9 コーディネーター 等の取組の様子	指導員が学生ボランティアとの連絡調整を図るだけでなく、生徒支援の方法についてアドバイスをするなど、ボランティアの指導力向上を図っている。また、欠席した生徒には学習進度表を配付し、家庭学習ができるようにしている。	
(取組の結果・効果)		
平成28年度から年間を通して現在の形で実施しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で開始を3か月延期し7月から開催をした。開催するにあたって、生徒が安心して学習に参加できるよう、入室前の検温実施や手指消毒、換気の徹底やマスク配布を行った。併せて講師へフェイスシールドを配布し、マスクでは発音など口の動きが見えなくなってしまうため、特に英語の授業で活用いただいている。また、新型コロナウイルス感染症に伴う中止連絡などの緊急連絡が一斉に配信できるよう、今年度よりメール配信システムを導入している。		

(塾名) 小牧市学習支援事業「駒来塾」		(運営主体) こども未来部こども政策課
(取組の概要)		
1 背景・ねらい	中学生の主体的な学習習慣の定着及び学力の向上を図るため、平成29年8月より事業開始	
2 対象校・対象者	市内4教室（東部・北里・味岡・小牧地区）にて実施 対象者は塾に通っていない市内全9中学校在籍生徒	
3 実施教科	国語、社会、数学、理科、英語	
4 実施場所	市内各市民センター	
5 実施の形態	生徒が教えてほしい教科の問題の回答方法や理解が十分でない内容について個別指導している（現在メイン教科として数学、英語を中心に学習）。	
6 実施日・回数 実施時間帯	毎週木曜日 午後6時30分～8時	
7 登録人数	東部地区12名 北里地区8名 味岡地区9名 小牧地区8名	
8 参加人数(平均)	東部地区11名 北里地区6名 味岡地区6名 小牧地区6名	
9 コーディネーター 等の取組の様子	学習支援員（教員OB）の中から地区の代表（塾長）を指定し、塾長が中心となって運営している。塾開始30分前から準備、担当の打合せを行い、生徒の状況等の情報共有を行っている。	
(取組の結果・効果)		
平成29年8月から事業を開始し、検討委員会で検証を重ねて順次地区拡大。教員OBや大学生等のサポーターによる寄り添った指導は、参加生徒や保護者から好評を得ている。家庭での学習習慣がついていなかった生徒が「駒来塾」に参加することで、自分から学ぶ姿勢が見られるようになってきた。		
コロナ禍においては、活動終了後の反省会を縮小する他、受付での健康チェック、手指・会場消毒の実施、座席間隔の確保、対面での指導から横並びでの指導へ変更するなど、感染症対策を施しながら事業を実施している。		



(塾名) 北名古屋市 (訓原中) アフタースクール教室 (運営主体) 教育委員会学校教育課

(取組の概要)

1 背景・ねらい	授業後に学習の場を設けることにより、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を育み、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。
2 対象校・対象者	訓原中学校 3 年生
3 実施教科	5 教科を中心とした生徒が用意する教材
4 実施場所	校内多目的教室
5 実施の形態	分からないところを指導者に質問しながら、自習学習を行っている。
6 実施日・回数	9 月～2 月 17 回
実施時間帯	授業後 1 時間程度
7 登録人数	14 名
8 参加人数(平均)	14 名
9 コーディネーター等の取組の様子	生徒の出席状況の確認、指導者の調整、会場の準備・片付け等を行っている。



(取組の結果・効果)

今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策(手指消毒や換気、座席の間隔を広くとる等)をとって実施した。2 か月間の休校で遅れた学習を取り戻すために、少しでも学習の場を作ることができたことは大きな効果である。参加生徒にアンケートを実施したところ、継続的な取組を望む声が聞かれた。

(塾名) 地域未来塾 (犬山学び場「みらい」)

(運営主体) 教育委員会学校教育課

(取組の概要)

1 背景・ねらい	学校での学習と連動した学習環境を提供することで、自ら学ぼうとする意欲を高めるとともに、よりよい学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。地域の方々に関わっていただくことで地域住民が学ぶ機会となり、地域の教育力の向上を期待する。
2 対象校・対象者	市内 4 中学校在籍生徒 (1 年生～3 年生)
3 実施教科	生徒が希望する全教科
4 実施場所	市内 4 か所の公共施設
5 実施の形態	生徒が教えてほしい教科の問題の解答方法や、理解が十分でない内容、定期テスト前の対策を行うなど個別指導をしている。
6 実施日・回数	土曜日 8 月～2 月 (年間 20 回)
実施時間帯	土曜日：午前 9 時～11 時
7 登録人数	39 名
8 参加人数(平均)	30 名
9 コーディネーター等の取組の様子	実施場所管理、生徒の出欠席及び支援状況の把握、教育委員会との連絡及び調整を行っている。

(取組の結果・効果)

中学校ごとに会場を設け実施。参加生徒や保護者からは概ね好評で、永続的な取組を望む声も聞かれている。年度途中の参加希望生徒もあり、これまでの取組が奏功している。

今年度は、コロナ禍ということもあり、参加人数を絞って募集した。また、会場での消毒や換気等にも配慮し、密にならないような机の配置等を心がけた。

(塾名) 江南市こども未来塾**(運営主体) 教育委員会教育課****(取組の概要)**

- | | |
|---------------------------|--|
| 1 背景・ねらい | 講師の指導により、計算プリント等を利用して、中学校1・2年生の生徒を対象に、基礎的な計算力の向上を図る。 |
| 2 対象校・対象者 | 市内全中学校1・2年生 |
| 3 実施教科 | 数学 |
| 4 実施場所 | 江南市防災センター内 |
| 5 実施の形態 | 6つのグループに分かれ、講師・学習アドバイザーが1名ずつついて指導にあたっている。プリントや学校教材を用いた個別指導を中心に実施している。 |
| 6 実施日・回数
実施時間帯 | 9月より月2回、土曜日に実施。
午後2時～4時 |
| 7 登録人数 | 30名 |
| 8 参加人数(平均) | 26名(8回実施の平均) |
| 9 学習指導員の取組の様子 | 実施前後のミーティングにおいて、指導者間の生徒の指導方法やルールの共有化を行っている。その他、問題や要望を事務局と調整、必要な生徒には学習内容に関わる学校との連携、通信の作成、休んだ講師等のフォローなどを行っている。 |

**(取組の結果・効果)**

今年度は、9月から開催をした。開催するにあたって、事前に非接触体温計、アルコール消毒液などを購入し、講師・学習アドバイザー、生徒及び保護者に対し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をお願いした。今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をして開催していきたい。

(塾名) 津島市立天王中学校区 地域未来塾(ごずてん)**(運営主体) Goes 天王****(取組の概要)**

- | | |
|---------------------------|---|
| 1 背景・ねらい | 市内先進校の神守中学校の地域未来塾「ドテラ」を参考にして、見学やアドバイスを経て、学習内容の基礎基本事項の習得を支援する目的で、「ごずてん」を平成28年度よりスタートした。 |
| 2 対象校・対象者 | 天王中学校3年生 |
| 3 実施教科 | 国語、社会、数学、理科、英語、面接 |
| 4 実施場所 | 中学校内空き教室 |
| 5 実施の形態 | 生徒が教えてほしい教科の問題の解答方法や理解が十分でない内容についての個別指導をしている。 |
| 6 実施日・回数
実施時間帯 | 11月～2月下旬の土曜日 15回
午前9時30分～11時30分 |
| 7 登録人数 | 8名(3密を避けるために、例年よりも定員を減らした) |
| 8 参加人数(平均) | 8名 |
| 9 コーディネーター等の取組の様子 | 学習支援担当ボランティアは、カギの管理、支援状況の把握、生徒とボランティア(学ボラ)のマッチングなどを受け持ち、ファイルを通して保護者と出欠席や学習内容の連絡共有に努めている。保護者もスタッフとして支援に協力的である。 |

**(取組の結果・効果)**

今年は、活動ができるのかという不安の中、2か月遅れて打合せを始め、何度も新型コロナウイルス感染症対策について話し合った。学校での感染対策を基本に、ボランティア活動期間中は絶対に新型コロナウイルス感染症を出さないという強い思いの中、いろいろな種類のフェイスシールドを試し、飛沫しないか、話しづらくないか、聞き取りづらくないか、試行錯誤しながら対策を進めた。さらに、噴霧式の手指消毒や非接触型体温計などの準備、使用する机・椅子は、開催日の朝、休憩時間、終了後にアルコール消毒を徹底し、常時換気も実施した。学ボラさんにもマスクの上にフェイスシールドをするなどの協力を依頼した。今年は11月からのスタートとなったが、例年通りの15回の活動を確保した。学習会後の活動報告は聞き取りから、直接的な会話を極力少なくする報告書形式に改善した。ボランティア終了後はできるだけ早く解散するように心掛けながら、学ボラの大学生等にも、感染症対策の相談をしながら活動している。去年のように学校が休校となって活動自体が途中で終わってしまう可能性もあるが、一回一回のボランティア活動を大切にと取り組んでいる。

(塾名) 大治町立大治中学校区 スタディー サポート クラブ (SSC) (運営主体) はるポラフレンズ

(取組の概要)

- | | |
|-----------------------|---|
| 1 背景・ねらい | 基礎学力の不十分な生徒への学習支援を通して、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 |
| 2 対象校・対象者 | 大治中学校3年生 |
| 3 実施教科 | 国語・社会・数学・理科・英語 |
| 4 実施場所 | 大治町立西公民館 |
| 5 実施の形態 | 生徒各自が授業や家庭学習で使用している問題集を持参し、講師に質問しながら自主学習を行う。 |
| 6 実施日・回数
実施時間帯 | 6月～2月 各月第2・4日曜日、夏休み4回・冬休み5回 合計26回
午前9時～11時30分 |
| 7 登録人数 | 15名 |
| 8 参加人数(平均) | 8名 |
| 9 コーディネーター
等の取組の様子 | 生徒募集案内・学生ボランティア募集案内の作成・配布・学習会場準備・学習プリントの作成・出欠席確認・各学期末にSSC通信発行 |

(取組の結果・効果)


今年度は、学校休業中の開催を避け6月から学習会を開催した。開催するに際して参加生徒及び指導員には、事前の検温、健康観察、マスク着用を文書で通知し徹底を図った。また、学習会場では入り口に消毒液を設置し、必ず手・指の消毒を徹底したり、座席を交互に配置して生徒同士のソーシャルディスタンスを確保したりするなど、感染防止に努め学習会を実施した。

参加生徒からは、「授業で聞き逃した問題を指導員の説明を聞いてやっと理解できた。」「事前に指導員に質問することを用意していたのでしっかり教えてもらえてよかった。」との声が聞かれ、制限の多い厳しい環境での学習会だったが、開催してよかったと感じている。

(塾名) 常滑市地域未来塾

(運営主体) 教育委員会学校教育課

(取組の概要)

- | | | |
|------------------------|---|---|
| 1 背景・ねらい | 中学生を対象に、自主的な学習習慣と基礎的な学力を身に付ける支援を目的とした「地域未来塾」を開設した。 |  |
| 2 対象校・対象者 | 市内全4中学校に通う生徒全員が対象 | |
| 3 実施教科 | 自習形式であるため教科の指定はない。 | |
| 4 実施場所 | 市内公民館等(学校区ごとに4か所) | |
| 5 実施の形態 | 自習形式で実施している。生徒が教材を持ち込み、わからないところがあれば学習支援員に質問する。 | |
| 6 実施日・回数
実施時間帯 | 【夏休み】新型コロナウイルスの影響で実施せず 【冬休み】12月中の2日間
【テスト期間】9月～2月までのテスト週間中に6～8日間全て
午後1時30分～4時30分 | |
| 7 登録人数 | 4カ所合計【夏休み】一人 【冬休み】 22人 【テスト期間】46人 | |
| 8 参加人数(平均) | 4カ所平均【夏休み】一人 【冬休み】 5.5人 【テスト期間】11人 | |
| 9 コーディネーター
一等の取組の様子 | コーディネーターは職員が務め、学習支援員や参加者の募集、実施場所の確保などを行っている。開催にあたって各教室の運営は学習支援員が行い、会場設営から片付けまでを全て学習支援員が行っている。 | |

(取組の結果・効果)

地域の元教員や教員を目指す大学生、塾講師経験者などの協力により、地域未来塾を開催している。生徒たちは静かな環境で集中して学習に取り組んでおり、学力向上のためによりよい環境を提供することができた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室や手指の消毒の徹底や検温を実施した。

通常、夏休み期間も開催していたが、今年は授業の遅れを取り戻すために学校で授業を行っていたので開催できなかった。

(塾名) 学習広場 みらいーな (東海市)

(運営主体) 教育委員会社会教育課

(取組の概要)

- 1 背景・ねらい
学習習慣が身に付いていない中学生を対象に学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身に付けることで基礎学力の向上を支援する。
- 2 対象校・対象者
市内全中学校在籍生徒1～3年生(学習塾等に通っていない生徒に限る。)
- 3 実施教科
主に数学・英語(生徒の学習状況により他教科も可)
- 4 実施場所
北地区: しあわせ村、南地区: 横須賀図書館
- 5 実施の形態
学習支援員(教員経験者)と学習サポーター(大学生等)がシフトを組み、北地区4名・南地区6名程度配置し、少人数グループでの学習支援教室を実施
- 6 実施日・回数
北地区: 日曜日(6～3月)午後1時30分～3時40分 年38回
南地区: 土曜日(6～3月)午後1時30分～3時40分 年38回
- 7 登録人数
北地区: 10名、南地区: 20名
- 8 参加人数(平均)
北地区: 延べ131名(平均6名)、南地区: 延べ325名(平均14名)
- 9 コーディネーター等の取組の様子
コーディネーターは社会教育指導員が務め、学習支援員や学習サポーターとの連絡調整、教材を中心とした環境整備を行っている。



(取組の結果・効果)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度は6月下旬から開催をした。(学校休業中は開催をしなかった。)また、今年度開始前に、行政職員、コーディネーター、スタッフ(学習支援員・学習サポーター)が集まり、実施方法の確認・調整をした。なお、実施前後は、机・イス等の消毒作業、出入口ドア・窓の開放による換気、スタッフ・参加生徒のマスク着用、人同士の距離確保等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行っている。

(塾名) まなポート (大府市中学生学習支援事業)

(運営主体) NPO法人アスクネット

(取組の概要)

- 1 背景・ねらい
学習の習慣付けを行うことにより、「生きる力の醸成」の一助とするとともに、地域で中学生の成長を支える仕組みを構築することを目的とする。
- 2 対象校・対象者
市内在住の中学生
- 3 実施教科
まなクルー(参加者)が希望する全教科
- 4 実施場所
4公民館(各中学校区に1か所)
- 5 実施の形態
市の委託事業者(NPO法人アスクネット)が、まなポートを運営している。まなクルーが、学習したい宿題や教材を持参し、学習する場として市内公民館を利用している。わからないところがある時に、教員を志す大学生等がまなポーター(学習ボランティア)として、サポートする。
- 6 実施日・回数
毎週土曜日 午後2時～5時
(学校行事により変更する場合あり)
- 7 登録人数
47名(令和2年11月末現在)
- 8 参加人数(平均)
23名(令和2年11月末までの平均)
- 9 コーディネーター等の取組の様子
学習支援員を各公民館に専属で配置し、生徒の出欠確認や学習サポートを行い、振り返りシート等を使用して生徒の様子や変化を把握している。



(取組の結果・効果)

令和元年度末に実施したアンケートでは、生徒、保護者の両方から前向きな意見を多くいただき、今年度は延べ47名の生徒が参加している。令和元年度に中学校を卒業した生徒が、今年度は学生ボランティアとして参加するなど、地域内での好循環が見られる。

コロナ禍による休校期間中は、生徒たちの学習の遅れや心理的な不安を少しでも解消するため、オンライン会議システムZoomを活用した「オンラインまなポート」や、郵送による学習教材の送付、添削など、在宅でも実施可能な学習支援を実施した。今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、様々な家庭環境の生徒に合わせて複合的に学習支援を実施する。

(塾名) なごみん塾 (刈谷市)

(運営主体) 子育て・子育てNPO スコップ

(取組の概要)

1 背景・ねらい

学習支援による学習習慣の確立と、居場所におけるスタッフ及び大学生ボランティアとの交流により中高生の健全育成を図る。

2 対象校・対象者

市内全学校(6校)及び高等学校(5校)の在校生及び市内在住の中学生・高校生

3 実施教科

教科の指定なし

4 実施場所

刈谷市総合文化センター3階 創作活動室及び談話コーナー

5 実施の形態

持参した教科書・問題集等で自主学習することを基本とし、わからない部分や勉強方法等について個別指導する。

6 実施日・回数

毎週火・木曜日 午後6時～8時

実施時間帯

7 登録人数

登録制とせず、利用ごとに受付する。

8 参加人数(平均)

8人/日(令和2年度平均)

9 コーディネーター等の取組の様子

コーディネーターは大学生ボランティアの配置及び当日の利用受付を含めた運営管理を担当する。また、大学生ボランティアとともに、利用する中高生とのコミュニケーションのとり方や支援方法について考える。



(取組の結果・効果)

新型コロナウイルスの影響で、令和2年3月上旬から8月末まで開催中止とし、感染症対策(手指消毒、検温、受付台帳の様式変更等)を講じたうえで9月から再開した。再開にあたり受付場所の変更を施設管理者と協議したり、学生スタッフが中高生に接近する際のガイドラインについて学生を交えて議論したりしながら準備を進めた。新型コロナウイルス対策により公共施設等の学習スペースの席数が減少しているため、その受け皿として学習の場を提供することができているほか、大学生サポーターと中高生が勉強以外での会話を楽しむなど、コロナ禍でコミュニケーション不足に陥りがちな中高生・大学生双方の情緒安定に役立っている。

(塾名) みよし未来塾

(運営主体) 教育委員会教育行政課

(取組の概要)

1 背景・ねらい

家庭学習の習慣が定着していなかったり、学習が遅れがちであったりする生徒に対して学習支援を行うことで、学習習慣を身に付けるきっかけの場とする。また、学習意欲のある生徒に学習の場を提供する。さらに、生徒に勉強を教える学習支援員を募集し、指導・育成することで、地域の教育力の向上につなげる。

2 対象校・対象者

市内在住・在学の中学生及び高校生

3 実施教科

全教科(ただし工作や習字等は除く)

4 実施場所

市民活動センター(中部地区会場)

カリヨンハウス(北部地区会場)

5 実施の形態

生徒が自ら持ち寄った課題を自主的に行い、質問がある場合は、学習支援員からアドバイスを受ける。

6 実施日・回数

【冬季】12/24～12/28(平日の3日間・3回)

実施時間帯

午後1時30分～4時

7 登録人数

【冬季】25名

8 参加人数(平均)

【冬季】平均8.8名(1日・1会場あたり)

9 コーディネーター等の取組の様子

市職員がコーディネーターとして、会場の予約、生徒の出席状況の確認、支援員の勤務調整等の業務を行っている。



(取組の結果・効果)

夏季と冬季の2回行っていた本市の未来塾は、夏季こそ中止となったが、冬季は実施することができた。感染症対策としては、支援員への事前の健康観察チェックシート、支援員・生徒全員への毎日の検温、支援員へのフェイスシールドの配布、一人一席で間隔をとるなどを行った。生徒からの意見として、図書館の学習スペースが利用できない中、学習環境が有り集中できたとの意見が多かった。一方、生徒から、席が離れていることや雰囲気により、支援員が回っているが声をかけにくかったとの意見や、支援員からも飛沫感染を心配して、生徒に話しかけにくかったとの意見があり、無声での意思表示の方法などが次年度以降の課題となった。

(塾名) たはら地域未来塾

(運営主体) 教育委員会学校教育課

(取組の概要)

1 背景・ねらい

中学生を対象として、学習習慣の定着を図るために実施。学校や家庭との連携を図り、支援が必要な子どもの居場所づくりとしての活用を目指している。

2 対象校・対象者

市内の中学校に通う生徒（東部、田原、赤羽根、福江の4中学校区）

3 実施教科

教科書の指定は、特に設けていない。(数学、英語を中心に)

4 実施場所

中学校の学習室及び、市民館の会議室

5 実施の形態

自習形式で生徒が宿題、教材を持ち込み、分からないところは個別に質問する。

6 実施日・回数

10月中旬～3月中旬の毎週木曜日

(部活動のない日に設定)・最大18日

実施時間帯

東部中学校・田原中学校：授業後1時間

赤羽根市民館：午後5時～6時30分(1.5時間)

福江市民館：午後5時～7時(2時間) 予定(今年度、開講未定)



7 登録人数

37名

8 参加人数(平均)

27名(3か所開催、1教室当たり平均9人)

9 コーディネーター等の取組の様子

運営は各会場の講師が主となって行い。市では、市民館や学校への協力要請、講師や参加者生徒の募集、指導方法や生徒への接し方について助言をしたり、必要に応じて講師の意見交換会を実施したりして改善に努めている。

(取組の結果・効果)

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、例年4月中旬開講時期を遅らせ、感染症対策を徹底したうえで10月中旬より4地区中3地区を開講した。開講開始時期のタイミングに苦勞した。1地区については講師の確保ができず、開講はできてないため早期の開講を目指す。

(塾名) とうえい地域未来塾

(運営主体) 教育委員会教育課

(取組の概要)

1 背景・ねらい

学習が遅れがちな生徒に学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図り、苦手な教科を克服する。

2 対象校・対象者

東栄中学校1年生

3 実施教科

国語 社会 数学 理科 英語の5教科

4 実施場所

東栄中学校教室

5 実施の形態

学習支援員の作った教材を各自のレベルやペースに合わせて問題を解き、質問形式の個別指導を行う。学習の遅れがちな生徒は宿題から進めていく。

6 実施日・回数

基本月曜日(午後4時～5時)13回 動画配信12回

実施時間帯

7 登録人数

12名

8 参加人数(平均)

12名

9 コーディネーター等の取組の様子

学習内容は学習支援員が計画している。未来塾実施日に教育課職員が出欠等状況を把握している。必要に応じて学校と学習支援員と学習内容の調整を行っている。

(取組の結果・効果)

当初は、年間25回の対面学習を計画していたが、学校休校中は開催できず、9月からのスタートとなり、半分くらいの開催になる見込みである。不足分を補うため、学習支援員による教材動画配信を行うなど、家庭でも学習できる環境を作ることができている。少人数のため、学習支援員が、個々のレベルに合わせた教材の提供や指導ができている。

(取組の概要)

1 背景・ねらい

子供たちに学習習慣を定着させるため、また学習内容の基礎基本事項の習得を支援する目的で、令和2年度よりスタートした。

2 対象校・対象者

豊根中学校・全学年生徒

3 実施教科

月・火(数学・英語)、水(全教科)

4 実施場所

豊根中学校「志高寮」

5 実施の形態

参加生徒が教えてほしい教科の問題の解答方法や理解が十分でない内容について学習支援ボランティアが指導している。

6 実施日・回数

毎週月・火・水曜日 76回

実施時間帯

午後7時~9時

7 登録人数

12名

8 参加人数(平均)

12名

9 コーディネーター

コーディネーターが支援状況の把握、出欠席、学習支援サポーターの援助等を行っている。また、活動支援員が会場のカギの管理や保護者との連絡調整を行っている。



(取組の結果・効果)

今年度は、学校休校中は開催せず、6月から開催した。開催するにあたっては、事前に未来塾申込を取りまとめるとともに実施方法について検討した。学習では換気に留意し、人との距離を広めにとるなど感染防止対策をとって実施した。未来塾がスタートして10か月、生徒にアンケート調査を実施した。その結果、「分からないところを教えてもらえる」「学力がアップした」「学校での授業が分かるようになった」という声が聞かれている。今後は、Wifi環境を活かし、タブレット等を有効活用するとともに、より多くの生徒が参加してもらえるよう魅力的な未来塾運営を検討していきたい。